



## はじめる前に

---

この項では、サーバまたはクラスタの置換を開始する前に行うタスクについて説明します。

### 手順

---

- ステップ 1** 製造元が提供するユーティリティを実行して、新しいサーバハードウェアの整合性を確認します。
- ステップ 2** 新しいサーバがサポート対象ハードウェアのリストに掲載されており、クラスタの負荷に対応するため適切にサイジングされていることを確認します。  
サーバモデルの容量については、次の資料を参照してください。
- ご使用の製品リリースのリリース ノート
  - [http://www.cisco.com/en/US/products/hw/voiceapp/ps378/prod\\_brochure\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/hw/voiceapp/ps378/prod_brochure_list.html)
- 当初のシステム設定以降の規模拡張も考慮してください。
- ステップ 3** サーバ間のリンクが遅延要件を満たしており、データベース複製に対応する十分な帯域幅があることを確認します。  
詳細については、『*Cisco Unified Communications SRND Based on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
- ステップ 4** すべてのシステム パスワードとアカウント ID を記録します。  
[アカウント名とパスワードの記録 \(4 ページ\)](#) を参照してください。  
置換サーバを設定するとき、同一のパスワードを入力する必要があります。これらのパスワードをサーバから取得することはできません。
- ステップ 5** カスタムの呼び出し音ファイル、電話機の背景イメージ、および保留音ソースのすべてについて、コピーを必ず用意します。  
復元を実行すると、これらの項目は復元されます。これは予防措置と考えてください。
- ステップ 6** サーバにインストールされているすべてのロケールの COP ファイルを取得して保管します。

置換後にロケールの再インストールが必要です。

- ステップ 7** コンピュータ名または IP アドレスの変更、およびクラスタへのノードの追加は行わないでください。
- ステップ 8** ダウンロードしたソフトウェアおよび DVD の整合性を確認します。  
次の作業を実行します。
- ダウンロードしたソフトウェアの MD5 チェックサムを公開値と照合して、ソフトウェアが正しくダウンロードされたことを確認します。
  - DVD ドライブで DVD を読み取れることを確認します。
- ステップ 9** ルーティングパスにファイアウォールが存在しない場合は、ノード間のファイアウォールを無効にします（可能な場合）。また、インストールが完了するまでは、ファイアウォールのタイムアウト設定を大きな値にしておきます。  
ノードで発着信されるネットワークトラフィックを一時的に許可する（たとえば、これらのノードのファイアウォールルールを IP any/any に設定する）だけでは、必ずしも十分ではありません。ファイアウォールが、タイムアウトのために、ノード間で必要なネットワークセッションを閉じる可能性があります。
- ステップ 10** 置換後に実行するすべてのシステムテストを置換前にも実行して、置換前にテストで問題が発生しないことを確認します。  
これらのテストを記録して、置換後に同一のテストを実行できるようにします。
- ステップ 11** DNS を使用する場合は、置換するすべてのサーバが DNS に正しく設定されていることを確認します。クラスタのすべてのノードが DNS を使用するか、どのノードでも使用しないかのいずれかにする必要があります。  
[DNS 登録の確認](#), (8 ページ) を参照してください。
- ステップ 12** Cisco Unified Communications Manager ノード間でネットワークアドレス変換 (NAT) およびポートアドレス変換 (PAT) を実行しないでください。
- ステップ 13** Cisco Unified Communications Manager Real Time Monitoring Tool (RTMT) を使用して、すべての登録情報を記録します。  
[登録数の確認](#), (9 ページ) を参照してください。  
古いサーバが稼働していない場合、このタスクは実行できません。
- ステップ 14** Cisco Unified Communications Manager Real Time Monitoring Tool (RTMT) を使用して、すべての重要なサービスおよびそのアクティベーションステータスを記録します。  
[重要なサービスの記録](#), (10 ページ) を参照してください。  
古いサーバが稼働していない場合、このタスクは実行できません。
- ステップ 15** Cisco Unified Communications Manager Real Time Monitoring Tool (RTMT) の Syslog ビューアを使用して、重大度が [エラー (Error)] 以上のイベントがないかどうかを確認します。  
この作業を実行して、システムに影響を及ぼすエラーがシステム上で発生していないことを確認します。  
[システムエラーの検索](#), (10 ページ) を参照してください。  
古いサーバが稼働していない場合、このタスクは実行できません。

- ステップ 16** すべての Trace and Log Central ジョブの詳細を記録します。  
[トレース ログのジョブ詳細の記録, \(11 ページ\)](#) を参照してください。  
古いサーバが稼働していない場合、このタスクは実行できません。
- ステップ 17** 必要に応じて、CDR の管理設定および送信先を記録します。  
[CDR 管理設定の記録, \(12 ページ\)](#) を参照してください。  
古いサーバが稼働していない場合、このタスクは実行できません。
- ステップ 18** Cisco Unified CM の管理から、サーバに設定されている個々の項目の数を確認します。  
[システムの設定項目数の記録, \(12 ページ\)](#) を参照してください。  
古いサーバが稼働していない場合、このタスクは実行できません。
- ステップ 19** Cisco Unified CM の管理から、[ファームウェアロード情報 (Firmware Load Information) ] ウィンドウに表示されるすべての電話ロードとデバイス タイプを記録します。  
[ファームウェア情報の記録, \(13 ページ\)](#) を参照してください。  
Cisco Unified Communications Manager に付属していないカスタムデバイス タイプがある場合は、適切な COP ファイルを必ず用意します。置換後にデバイス タイプの再インストールが必要です。  
古いサーバが稼働していない場合、このタスクは実行できません。
- ステップ 20** 「特記事項」列に示す参照先の項で説明されているすべてのネットワーク設定その他の設定を、置換するサーバごとに記録します。  
次の項を参照してください。
- [ネットワーク構成時の設定の記録, \(5 ページ\)](#) .
  - [SMTP 設定の記録, \(8 ページ\)](#)
  - [ホスト名とタイムゾーンの記録, \(8 ページ\)](#)
- 古いサーバが稼働していない場合、このタスクは実行できません。
- ステップ 21** Cisco Unified CM の管理を使用して、クラスタ内の各ノードのシステム バージョンを比較します。そのバージョンの DVD があることを確認します。  
[システム バージョンの記録, \(14 ページ\)](#) を参照してください。  
サービス リリースがある場合は、ベース リリースのメディアとサービス リリースが必要です。
- ステップ 22** クラスタがセキュア モードで動作している場合は、Windows オペレーティング システムを実行するコンピュータに USB eToken デバイスが装着され、CTL クライアント プラグインユーティリティがインストールされていることを確認します。  
これらのタスクの実行および Cisco Unified Communications Manager のセキュリティについては、『*Cisco Unified Communications Manager Security Guide*』を参照してください。
- ステップ 23** リモート SFTP サーバに対してパブリッシュ サーバの DRS バックアップを実行し、バックアップが成功したことを確認します。必要に応じて、DRS のバックアップ場所とスケジュール情報を記録します。  
SFTP が機能していることを確認するには、復元するサーバと同じサブネットにあるコンピュータで SFTP クライアントを使用して、バックアップをそのコンピュータにダウンロードします。

置換または再インストールするすべてのクラスタ ノードがオンラインになっていて、ノードとして登録されていることを確認します。DRS は登録されているオンライン ノードのみをバックアップします。

古いサーバが稼働していない場合、このタスクは実行できません。

[バックアップの作成](#)を参照してください。

- [システム構成情報, 4 ページ](#)
- [DNS 登録の確認, 8 ページ](#)
- [登録数の確認, 9 ページ](#)
- [重要なサービスの記録, 10 ページ](#)
- [システム エラーの検索, 10 ページ](#)
- [トレース ログのジョブ詳細の記録, 11 ページ](#)
- [CDR 管理設定の記録, 12 ページ](#)
- [システムの設定項目数の記録, 12 ページ](#)
- [ファームウェア情報の記録, 13 ページ](#)
- [システム バージョンの記録, 14 ページ](#)

## システム構成情報

サーバを置換または再インストールする前に、この項に記載された情報を用意する必要があります。用意した情報は、復元または再インストールの前後で一致する必要があります。サーバ置換の場合、この情報は置換前のサーバと置換後のサーバの間で一致する必要があります。

クラスタ内の交換または再インストール対象の各 Cisco Unified Communications Manager サーバについて、この情報を収集します。すべての情報を入手する必要はありません。システムおよびネットワーク設定に関連する情報のみ収集してください。

## アカウント名とパスワードの記録

次の表に示す項目を含む、すべてのシステム パスワードとアカウント ID を記録します。これらのパスワードをサーバから取得することはできません。



### 注意

置換サーバを設定するとき、同一のパスワードとアカウント ID を入力する必要があります。

以前に古い製品リリースからアップグレードされたサーバを交換すると、Cisco Unified Communications Manager のインストール プログラムによってパスワードが拒否される可能性があります。

ります。これは、パスワード検証ルールが新しい製品リリースで強化されている可能性があるが、アップグレード中にパスワードの再検証が行われなためです。ただし、交換するサーバで新規インストールを実行すると、より強力な新しいパスワード検証が行われます。

この問題が発生したら、インストールプログラムで受け付けられる新しいパスワードを選択します。パスワードの詳細については、『*Installing Cisco Unified Communications Manager*』のドキュメントを参照してください。

表 1: パスワードおよびアカウント設定データ

フィールド	説明
管理者 ID :	CLI へのセキュア シェル アクセス、Cisco Unified CM の管理へのログイン、およびディザスタ リカバリ システムへのログインに使用するユーザ ID。
管理者パスワード	管理者 ID アカウントへのログインに使用するパスワード。
アプリケーション ユーザ名	Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unified Serviceability など、システムにインストールされているアプリケーションのデフォルトのアプリケーション ユーザ名。  リリース 5.x では、アプリケーション ユーザ名はインストール時に自動的に CCMAAdministrator に設定されます。  リリース 6.x では、インストール時にアプリケーション ユーザ名を選択します。
アプリケーション ユーザパスワード	Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unified Serviceability など、システムにインストールされているアプリケーションのデフォルトのパスワードとして使用されるパスワード。
セキュリティ パスワード :	クラスタ内の Cisco Unified Communications Manager サーバが相互の通信に使用するセキュリティ パスワード。  クラスタ内のすべてのノードに対して、同一のパスワードを入力する必要があります。

## ネットワーク構成時の設定の記録

次の手順に従って、ネットワーク設定を記録します。

**注意**

置換サーバを設定するとき、同一のネットワーク設定を入力する必要があります。置換サーバでネットワーク設定を変更しないでください。唯一の例外は NIC 速度と二重化設定で、これらはこの項で説明するとおりに設定します。

**手順**

**ステップ 1** Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理で、[表示 (Show) ]>[ネットワーク (Network) ]に移動します。

**ステップ 2** 次の表に示す項目を含む、すべてのネットワーク設定を記録します。

表 2: ネットワーク設定情報

パラメータと入力値	説明
DHCP ステータス : _____	ダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコルのステータス。 DHCP が無効な場合は、ホスト名、IP アドレス、IP マスク、およびゲートウェイを入力する必要があります。
DNS の有効/無効状態 : _____	DNS のステータス。 DNS が無効な場合、Cisco Unified Communications ネットワークのすべてのネットワーク デバイスに対して (ホスト名ではなく) IP アドレスだけを入力します。
プライマリ DNS : _____._____._____._____ _____	Cisco Unified Communications Manager がホスト名を解決するときにまず問い合わせるプライマリ DNS サーバの IP アドレス。 DNS が有効な場合、必要に応じてこの設定を検査します。
セカンダリ DNS : _____._____._____._____ _____	プライマリ DNS サーバに障害が発生した場合に Cisco Unified Communications Manager が接続を試みるセカンダリ DNS サーバの IP アドレス。
ドメイン : _____	このマシンが配置されているドメインの名前。 DNS が有効な場合、必要に応じてこの設定を検査します。
ゲートウェイ アドレス : _____._____._____._____ _____	デフォルト ゲートウェイ (別のネットワークへの入口の役割を果たすネットワーク ポイント) の IP アドレス。発信パケットはゲートウェイに送信され、ゲートウェイから最終宛先に転送されます。  ゲートウェイがない場合も、このフィールドに 255.255.255.255 を設定する必要があります。ゲートウェイがないと、通信先がサブネット上のデバイスに限られます。

パラメータと入力値	説明
ホスト名 : _____	ホストを識別する IP アドレスに割り当てられているエイリアスを表す名前。  DHCP が無効な場合、必要に応じてこの設定を検討します。
IP アドレス : _____	このマシンの IP アドレス。このネットワーク上でこのサーバを一意に識別します。このネットワーク上の別のマシンが同じ IP アドレスを使用していないことを確認します。  DHCP が無効な場合、必要に応じてこの設定を検討します。
IP マスク : _____	このマシンの IP サブネット マスク。サブネット マスクと IP アドレスで、ネットワーク アドレスおよびホストアドレスを指定します。
NIC 速度 : _____	サーバのネットワーク インターフェイス カード (NIC) の速度。単位はメガビット/秒 (Mbps) です。
NIC 二重化 : _____	サーバ NIC の二重化設定。
MTU サイズ	最大転送単位 (MTU)。このホストがネットワークで転送する最大パケット (バイト単位)。
NTP サーバ : _____ _____	時刻同期先の NTP サーバのホスト名または IP アドレス。  システムを NTP クライアントとして有効にしていた場合は、必要に応じてこの設定を検討します。

**ステップ 3** 新しいサーバを接続するスイッチ ポートの NIC 速度と二重化設定を記録します。NIC 設定は、サーバとスイッチ ポートで同じ設定にする必要があります。GigE (1000/FULL) の場合、NIC およびスイッチ ポートの設定をどちらも Auto/Auto に設定する必要があります。固定値は設定しないでください。

ネットワーク耐障害性を使用している場合、置換を実施するとネットワーク耐障害性の設定が失われます。そのため、アップグレード後に各サーバで設定する必要があります。

Cisco Unified Communications Manager サーバに接続されているすべてのスイッチ ポートで、PortFast を有効にします。PortFast を有効にすることで転送遅延 (スパニングツリープロトコル (STP) の学習状態およびリッスン状態から転送状態に変化するまで、ポートが待機する時間) が短縮され、スイッチのポートがブロック状態から転送状態にすばやく切り替わります。

## 関連トピック

[はじめる前に](#), (1 ページ)

# SMTP 設定の記録

次の手順に従って、SMTP サーバの設定を記録します。この設定は、送信電子メールに使用される SMTP ホストのホスト名または IP アドレスを指定します。

## 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理で、[設定 (Settings)] > [SMTP] に移動します。
- ステップ 2** SMTP サーバの IP アドレスまたはホスト名を記録します。
- 

# ホスト名とタイムゾーンの記録

次の手順に従って、ホスト名およびタイムゾーン設定を記録します。

## 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理で、[表示 (Show)] > [システム (System)] に移動します。
- ステップ 2** 次のフィールドの設定を記録します。
- [ホスト名 (Host Name)] : サーバの一意のホスト名
  - [タイムゾーン (Time Zone)] : ローカル タイムゾーンとグリニッジ標準時 (GMT) からの時差
- 

# DNS 登録の確認

DNS を使用する場合は、置換するすべてのサーバが DNS に正しく登録されていることを確認します。



## 手順

- 
- ステップ 1** コマンドプロンプトを開きます。
- ステップ 2** 各サーバを DNS 名で ping するには、次のように入力します。

**ping** DNS 名

- ステップ 3** 各サーバを IP アドレスで検索するには、次のように入力します。

**nslookup** IP アドレス

---

## 関連トピック

[はじめる前に, \(1 ページ\)](#)

# 登録数の確認

Cisco Unified Communications Manager Real Time Monitoring Tool (RTMT) を使用して、登録された電話機とゲートウェイの数を含む登録済みデバイスの数を記録します。

## 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から [アプリケーション (Application)] > [プラグイン (Plugins)] を選択し、[検索 (Find)] をクリックし、適切な RTMT インストーラの横にある [ダウンロード (Download)] リンクをクリックして、Cisco Unified Communications Manager Real Time Monitoring Tool (RTMT) をダウンロードしてインストールします。
- Microsoft Windows オペレーティングシステムを実行しているコンピュータに RTMT ツールをインストールする場合は、Cisco Unified Communications Manager Real Time Monitoring Tool-Windows の [ダウンロード (Download)] リンクをクリックします。Linux オペレーティングシステムを実行しているコンピュータに RTMT ツールをインストールする場合は、Cisco Unified Communications Manager Real Time Monitoring Tool-Linux の [ダウンロード (Download)] リンクをクリックします。
- ステップ 2** RTMT を開きます。
- ステップ 3** 次のいずれかの作業を実行します。
- [クイック起動チャンネル (Quick Launch Channel)] で、[CallManager] タブ、[表示 (View)] タブ、[デバイス (Device)] カテゴリの順にクリックして、[デバイス (Device)] アイコンをクリックします。
  - [CallManager] > [モニタ (Monitor)] > [デバイスの要約 (Device Summary)] を選択します。

- ステップ 4** Cisco Unified Communications Manager ノードごとに、表示される各デバイス タイプの数を記録します（登録済みの電話機、FXS、FXO、T1Cas、PRI、MOH、MTP、CFB、XCODE、および H323 ゲートウェイの数など）。
- 

#### 関連トピック

- [はじめる前に, \(1 ページ\)](#)
- [完全置換](#)

## 重要なサービスの記録

Cisco Unified Communications Manager Real Time Monitoring Tool (RTMT) を使用して、すべての重要なサービスおよびそのステータスを記録します。

#### 手順

---

- ステップ 1** 次のいずれかの作業を実行します。
- [クイック起動チャンネル (Quick Launch Channel) ] で、[システム (System) ] タブ、[表示 (View) ] タブ、[サーバ (Server) ] カテゴリの順にクリックして、[重要なサービス (Critical Services) ] アイコンをクリックします。
  - [システム (System) ] > [サーバ (Server) ] > [重要なサービス (Critical Services) ] を選択します。
- ステップ 2** クラスタ内のノードごとに、すべての重要なサービスのステータスを記録します。
- 

#### 関連トピック

- [はじめる前に, \(1 ページ\)](#)
- [完全置換](#)

## システム エラーの検索

Cisco Unified Communications Manager Real Time Monitoring Tool (RTMT) の Syslog ビューアを使用して、重大度が [エラー (Error) ] 以上のイベントがないかどうかを確認します。

#### 手順

---

- ステップ 1** RTMT を開き、次のいずれかの作業を実行します。

- [クイック起動チャネル (Quick Launch Channel) ] で、[システム (System) ] タブ、[ツール (Tools) ] タブの順にクリックして、[Syslog ビューア (SysLog Viewer) ] アイコンをクリックします。
- [システム (System) ] > [ツール (Tools) ] > [Syslog ビューア (SysLog Viewer) ] > [Syslog ビューアを開く (Open SysLog Viewer) ] の順に選択します。

- ステップ 2** [ノードの選択 (Select a Node) ] ドロップダウン リスト ボックスで、表示するログが格納されているサーバを選択します。
- ステップ 3** [アプリケーションのログ (Application Logs) ] フォルダをダブルクリックします。
- ステップ 4** 重大度が [エラー (Error) ] 以上のイベントがないかどうかを確認します。
- ステップ 5** 各ログを参照して、システムに影響を及ぼすエラーがないかどうかを確認します。

#### 関連トピック

- [はじめる前に, \(1 ページ\)](#)
- [完全置換](#)

## トレース ログのジョブ詳細の記録

すべての Trace and Log Central ジョブの詳細を記録します。

#### 手順

- ステップ 1** RTMT を開き、次のいずれかの作業を実行します。
- [クイック起動チャネル (Quick Launch Channel) ] で、[システム (System) ] タブ、[ツール (Tools) ] タブの順にクリックして、[ジョブステータス (Job Status) ] アイコンをクリックします。
  - [システム (System) ] > [ツール (Tools) ] > [トレース (Trace) ] > [ジョブステータス (Job Status) ] を選択します。
- ステップ 2** スケジュール済みの各ジョブをダブルクリックし、[詳細の表示 (Show Detail) ] ダイアログボックスに表示される各ジョブの詳細を記録します。

#### 関連トピック

- [はじめる前に, \(1 ページ\)](#)

## CDR 管理設定の記録

必要に応じて、CDR の管理設定および送信先を記録します。

[CDR の管理設定 (CDR Management Configuration) ] ウィンドウを使用して、呼詳細レコード (CDR) ファイルと呼管理レコード (CMR) ファイルに割り当てるディスク スペースの容量、ファイルを削除するまでの保存日数、および CDR の送信先となる最大3つの課金アプリケーションサーバを設定します。CDR Repository Manager サービスは、CDR ファイルと CMR ファイルが正常に送信されるか、[CDR の管理設定 (CDR Management Configuration) ] ウィンドウで課金アプリケーションサーバが変更または削除されるか、ファイルが保存期間を過ぎて削除されるまで、[CDR の管理設定 (CDR Management Configuration) ] ウィンドウに設定されている課金サーバに対して、これらのファイルの送信を繰り返し試行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Unified Serviceability から、[ツール (Tools) ] > [CDR管理 (CDR Management) ] を選択します。  
[CDR の管理設定 (CDR Management Configuration) ] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [一般的なパラメータ (General Parameters) ] および [課金アプリケーションサーバパラメータ (Billing Application Server Parameters) ] の値を記録します。
- 

### 関連トピック

[はじめる前に, \(1 ページ\)](#)

## システムの設定項目数の記録

Cisco Unified CM の管理から、置換後に確認する、システムに設定されている各項目の数を取得します。カウントする項目の例を次に示します。

- 電話機
- ゲートウェイ
- トランク
- ユーザ
- ルートパターン
- CTI ポート
- CTI ルートポイント

## 手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、カウントする各項目のウィンドウにアクセスし、検索パラメータを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。たとえば、次のようなウィンドウにアクセスします。
- [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phones)] ([デバイス (Device)] > [電話 (Phone)])
  - [ゲートウェイの検索と一覧表示 (Find and List Gateway)] ([デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)])
  - [トランクの検索と一覧表示 (Find and List Trunks)] ([デバイス (Device)] > [トランク (Trunk)])
  - [ルートパターンの検索と一覧表示 (Find and List Route Patterns)] ([コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ルートパターン (Route Pattern)])
  - [ユーザの検索と一覧表示 (Find and List Users)] ([ユーザ管理 (User Management)] > [エンドユーザ (End Users)])
  - [アプリケーションユーザの検索と一覧表示 (Find and List Application Users)] ([ユーザ管理 (User Management)] > [アプリケーションユーザ (Application Users)])
- ステップ 2** 各項目 (デバイス、ルートパターン、およびユーザ) の数を記録します。

## 関連トピック

[はじめる前に, \(1 ページ\)](#)  
[完全置換](#)

# ファームウェア情報の記録

[ファームウェア ロード情報 (Firmware Load Information)] ウィンドウに表示されるすべての電話ロードとデバイス タイプを記録します。

## 手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [ファームウェアロード情報 (Firmware Load Information)] を選択します。  
[ファームウェア ロード情報 (Firmware Load Information)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 表示されたすべての電話ロードとデバイス タイプを記録します。  
(注) Cisco Unified Communications Manager に付属していないカスタムデバイス タイプがある場合は、適切な COP ファイルがあることを確認してから再インストールしてください。

### 関連トピック

[はじめる前に, \(1 ページ\)](#)

[完全置換](#)

## システムバージョンの記録

Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理を使用して、クラスタ内の各ノードのシステム バージョンを比較します。

そのバージョンのDVDがあることを確認します。サービスリリースがある場合は、ベースイメージのメディアとサービス リリースが必要です。

### 手順

- 
- ステップ 1** [Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理 (Cisco Unified Communications Operating System Administration) ] ウィンドウで、[表示 (Show) ] > [システム (System) ] を選択します。
- [システム ステータス (System Status) ] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [製品バージョン (Product Version) ] フィールドに表示された値をメモします。
- 

### 関連トピック

[はじめる前に, \(1 ページ\)](#)

[完全置換](#)